

News Letter vol.26 2011.10.13

台湾に滞在して思ったこと

派遣国名:台湾
受入機関:台湾大学
派遣期間:2011.7.26~2011.9.30

私は7月末から9月末までの約2ヶ月の間、台湾の国立台湾大学に滞在し、受入教員の久米助理教授と共同で研究を行ってきました。日本でも一番暑い時期にもっと暑い亜熱帯に行ったので、毎日、強い日差しが照りつけ、暑い2ヶ月でした。

滞在中は、主にデータの取りまとめ、解析を行ってきました。具体的な内容は、日本の西日本で拡大している竹林が水循環にどのような変化を生むのかを調べるために、久米先生と共同でデータを統合し、モデルの一部を構築することです。竹林が針葉樹人工林に侵入した場合を再現するために、まず針葉樹人工林の蒸散量のモデル化を行いました。これに加えて、共同でデータを取りまとめ、竹林と針葉樹人工林間の蒸散量やその効率を比較しました。その結果、竹林が高い効率で蒸散していることを明らかにし、針葉樹人工林をも飲み込むような高い生産力を得ている可能



性を示唆しました。アジアの多様な森林タイプの蒸散量計測やそのモデル化の経験がある久米先生とデータの共有や議論ができ、派遣の目的も達成できたのではないかと考えています。

研究の面ではこのような成果を上げることができましたが、これ以外にも台湾に滞在して得るものがあったように思います。台湾に滞在することで生活環境を変えることができ、2ヶ月という短い期間でしたが新しい



大学内の様子

気分の研究に取り組むことができました。私は、演習林の現在の所属研究室に配属されて、今年で7年目になります。これまでは、他の研究室の様子を見る機会ほとんどありませんでした。今回の滞在中で他の研究室、その研究サイト、ゼミの様子、研究室全体での研究の進め方などを目にする事で、自分や研究室のスタイルを客観的に見れたような気がします。また、自分の研究に集中できる環境を与えられたことで、おもしろいと思うこと、今やるべきことや次にやることなどを再確認できました。今年、学位の

取得ができ、これまでのことをまとめて、次の研究について考える時期に、今回の海外派遣は良い機会になったと思います。

最後になりましたが、戦略企画係の波多さん、藤原さんには、今回の派遣手続きでお世話になりました。また、台湾への派遣中、演習林の研究室の皆さんにはいくつかの仕事を分担していただきました。滞在先では久米先生をはじめ、研究室の秘書さん、学生の皆さん、その他の研究室の方々に温かく迎えていただき、中国語がまったく分からない私に対しても親切に接していただきました。ありがとうございました。